閖上と大川 語り部語り合う

名取で記者交え講演会

東日本大震災の語り部活動を続ける人たちとメディアが伝え続ける意義を考える講演会「あの日から、ともに学ぶ」が29日、名取市閖上公民館であった。同市の一般社団法人「閖上の記憶」が主催し、約40人が参加した。

石巻市の大川伝承の会共同代表の佐藤敏郎さん(59)と閖上の記憶代表の丹野祐子さん(53)が講演した。佐藤さんは「語り部活動は個々の立場でできることを共に確かめること。『ともに』という姿勢を丹野さんに教わった」と話した。

伝え続ける意義を語る佐藤さん(右)と丹野さん

丹野さんは「あの日を体験したのは、私たちだけじゃない。みんなが語り、学び合う雰囲気ができるといい」と呼びかけた。

新聞社や放送局の地元記者3人を交えた意見交換もあった。佐藤さんは「若い記者は知らないことを恐れず、何でも取材して言葉を引き出して。私たちも気付きが得られる」と注文。丹野さんも「切り口を変えて伝え続けてほしい」と要望した。

記者からは「新型コロナウイルス禍を経て、メディアは被災地に人々をいざなう窓口役を果たしたい」などの声が上がった。

2022年10月30日(日) 河北新報「あの日から、ともに学ぶ」